

## 加藤茂弘 研究員

コロナ感染拡大による緊急事態宣言下で、東京オリンピック・パラリンピック2020が終了しました。

このオリンピックは、2011年東日本大震災からの復興のアピールをスローガンとして招致されました。今回は限らず、東京オリンピックは地震・津波災害と



縁が深いのです。

中止された1940年東京オリンピックの背景には、23年関東大震災で壊滅的な被害を受けた東京市の奇跡的な復興がありました。64年東京オリンピックの年には新潟地震が起こり、液状化で建物が倒壊し

たり、石油タンクが炎上したりするなどの被害が発生しました。

徳川家康が幕府を開いた江戸の地が、東京の前身です。歴史記録が多く残されるようになった江戸時代以降も、東京は幾度も大地震に襲われてきました。

関東大震災を引き起こした関東地震や、その一つ前の1703年元禄(げんろく)地震は、いずれも相模トラフで発生した海溝型地震です。

一方、1855年安政江



鯨絵「大鯨江の賑わい」。蒸気をふく黒船と鯨に見立てた地震鯨が描かれる

しかし、歴史記録にはそのような記述が見つからず、大阪湾断層が9世紀以降に活動したかどうかは確実ではありません。

最近、神戸大学の研究グループが大阪湾の詳細な活断層調査を始めました。ホームページに公開された大阪湾断層の音波探査結果には、海底近くの地層がずれ、さらに地層に覆われて平らになっている様子が認められます。

したがって、ここ数千年間に地層がずれた、つまり大地震が起きた可能性が高いのですが、地層の年代を決める調査が必要になります。海底の活断層調査にはお金がかかり、神戸大グループではそれを民間募金で集めているようです。

安全・安心のため、公益性の高い調査には行政が協力すべきであり、国をはじめ大阪府や兵庫県などのご支援をお願いしたいと思えます。

## ひとはく 研究員 だより

# 大阪湾断層、再調査が必要

実は、私たちに身近な大阪湾にも大鯨が息を潜めています。淡路島の沖合を神戸までのびる、長さ約39キロの大阪湾断層です。

大阪湾断層は、9世紀以降に大地震を起こし、活動周期が約3千〜7千年であると評価されています。この断層が活動すれば、地震の揺れや津波が大阪や神戸に大被害をもたらすはずで